

IDE Updates

研究所の取り組みをご紹介します

世界的に有名な経済学者であるジャック・ティス教授がアジア経済研究所に加わりました

二〇一六年四月に、ジャック・ティスルヴァン・カトリック大学教授 (Jacques-François Thise, Université catholique de Louvain) が、席主任調査研究員として、アジア経済研究所の一員となりました。ジャック・ティス研究員は、経済地理学、産業組織論、国際貿易、公共経済学など、幅広い分野の研究に取り組み、多くの著作や論文を発表しています。

去る五月一三日(金)には、研究ワークショップを開催しました。このワークショップでは、日本で都市経済学を牽引している東京大学の「Urban Economics Workshop」と共催し、都市経済学の第一線で活躍する研究者が参加しました。ジャック・ティス研究員を含む五名が発表を行い、参加者が発表に対してコメントするという形式で行われました。五時間超という長時間のワークショップでしたが、非常に濃密な発表、議論が行われました。

アジア経済研究所からは、後閑利隆研究員(経済地理研究グループ)と熊谷聡(経済地理研究グループ)長が発表を行いました。後閑研究員は、単一中心都市と鉄道や高速道路などの新しい輸送手段の関係について発表しました。熊谷研究員は、東アジアにおける人口移動と都市化の関係をアジア経済研究所が開発した経済地理シミュレーション・モデル (IDE Geographic Simulation Model: IED-GSM) を使って説明しました。また、東京大学の田淵隆俊教授は企業が多様な製品を生産することと市場の寡占化について、同じく東京大学の高橋孝明教授

は都市の空間的な構造と移動手段の関係について発表されました。ジャック・ティス研究員は、貿易論や経済成長論、空間経済学で幅広く用いられる独占的競争について、頻繁に利用される効用関数の特性を明らかにし、特定の効用関数だけを用いた分析から政策的含意を導出する場合には、注意が必要であることを明らかにしました。

五月一九日には、ジャック・ティス研究員とアジア経済研究所の佐藤仁志(席主任調査研究員)による研究発表も行われました。ジャック・ティス研究員は都市の発展とインフラ整備や異動コストの低下の関係について、佐藤研究員は一時雇用者とグローバルゼーションの関係について発表しました。発表後のディスカッション、意見交換では有益なコメントが多く出され、研究内容をより洗練されたものとするのができました。

また、ジャック・ティス研究員がアジア経済研究所に滞在中に、同じく地理経済学や産業組織論を専門とし、ジャック・ティス研究員との共同研究の実績があるロシア国立研究大学経済高等学校のフィリップ、ユスチエフ



所内での意見交換会の様子



ワークショップの様子

センター主任研究員をアジア経済研究所に招聘しました。ユスチエフ氏はジャック・ティス研究員とアジア経済研究所の研究員との共同論文の執筆作業を行いました。このような外部の研究者との研究交流は、研究者に新たな視点を提供してくれます。

これからも、所内での研究発表会や所外の専門家とのワークショップの開催、所内外の研究者との共著論文の執筆などジャック・ティス研究員を交えての研究発表やミーティングが行われます。このような取り組みを通じ、より質の高い研究成果が生まれることが期待されます。(文責: 研究マネジメント職 片岡真輝)